

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

# ことう地域チームケア研究会たより



日時：平成28年7月14日(木) 18:30~20:30

会場：くすのきセンター1階研修室

参加者：86名（医療関係者39名、福祉関係者35名、行政等16名）

新規参加 22名

平成28年8月5日 発行

## 《テーマ》 地域での暮らしを支える ~介護サービス事業所の実践から~

「地域密着型介護サービス」 (一般社団法人 彦根愛知犬上介護保険事業者協議会)

### 《その1》 『定期巡回・随時対応型訪問介護看護について』

#### 『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』

24時間対応で身体介護や生活援助および安否確認等を柔軟におこなうサービスで、計画に基づき1日に複数回訪問します。また、利用者からの問い合わせを受けて随時の訪問を必要に応じて行います。訪問介護と訪問看護が一体的にまたは連携して訪問します。



(株)アイズケア 田中祥介さん  
サービスの概要を説明して頂きました。湖東圏域ではまだこのサービスは始まっていませんが、現在彦根市内において、準備中です。



見守りセンサーが付いているこの前を通ると反応して、オペレーターに情報が届きます。



### 《その2》 『小規模多機能型居宅介護の概要と実際の支援について』

#### 概要



小規模多機能型居宅介護では、「通いサービス」を中心に、ご本人の様態や希望に応じて、「訪問サービス」「宿泊サービス」といったサービスを組み合わせ、介護が必要になった高齢者が自宅で継続して生活するために必要な支援を365日24時間体制で実施。

利用者の生活スタイルを尊重し、その人らしい暮らしの実現のために、家族、友人、近隣住民と協力して、地域の中で継続的な支援を考える。

#### 特色・特徴

じょいふる  
あいしょう  
浦部正義さん

- 「通い」「訪問」「泊まり」どのサービスを利用して、いつも顔なじみの職員がケアを行います。
- 少人数登録制のため、家庭的な雰囲気の中で、他の利用者・職員と過ごすことができます。
- 月額定額制のため、介護保険利用限度額からはみ出す心配がありません。(ケアプランによっては限度額超過となることもあります)
- 24時間年中無休なので、いざという時にも対応可能。安心して在宅生活が送れます。
- 介護度が中重度になっても、住み慣れた自宅での生活を可能にします。

#### ある支援事例より



わいわいがやが家  
山田悦子さん

#### 小規模多機能型のサービス内容

現在のサービス内容

安否確認確認、服装確認と介助、お風呂介助、ポータブルトイレとトイレ掃除、翌日の服装準備、お風呂と水分摂取の確認、通いサービスの準備、在宅時や夜間緊急時の対応など

曜日	12時	14時	16時	18時	20時
月	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問
火	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問
水	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問
木	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問
金	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問
土	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問
日	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問

入浴、昼・夕の食事、趣味活動、外出支援、髪洗チェック、体操、生活リハビリ、他者との交流、自宅でできない車の洗濯など

● 医療保険サービス  
● 介護保険サービス

#### 小規模多機能の支援以外の支援内容

- 訪問看護(医療保険) 体調確認・全身状態・バイタルの確認、手洗・足洗、履き替え、居室状況の確認、緊急時の対応
- 福祉用具 車イス・手すり・低床ベッド・介助バー・スロープのレンタル
- 訪問リハビリ(医療保険) リハビリ、器具設定、車イスの調整
- 福祉用具 車イス・手すり・低床ベッド・介助バー・スロープのレンタル
- 訪問診療(1日/2週間) 定期的な診察、急病時の対応、病状などの相談、各担当者と

福祉用具や医療保険サービスを組み合わせその人の生活を支援します

# 全体交流会より

## 交流会・自己紹介タイム

～感想・自分たちができること・もっと知りたいこと～

今回、湖東地域の9つある小規模多機能型居宅介護事業所から多くのスタッフの方が参加して下さいました。各テーブルでは、サービスに関するたくさんの疑問・質問が出され、交流会は大いに盛り上がりました。全体会では、さらに介護サービスについて理解を深めて頂くために『わかったこと』や『もっと知りたいこと』を出し合っていました。



☆司会は鈴木則成さん  
(鈴木ヘルスケアサービス)

小規模多機能のスタッフから  
他職種へ聞きたい!



## 小規模多機能型のこともっと知りたい!

①『どのような場合が限度額オーバーになりますか?』

⇒例えば、福祉用具を使用した場合や訪問看護などを多く利用されると限度額を超える場合もあります。

②『金銭面への不安があります。ターミナル期まで利用できますか? 金銭面でも高額になるのでは?』

⇒包括利用料金(介護度により一定料金)になるので訪問介護が増加しても料金は変わらず、泊りや食事の回数が増えると料金はかさみます。

例えば、要介護3で長期間宿泊を利用されると、グループホームよりも高くなることもあります。サービスの利用状況によって料金は変わります。詳しいことは、各事業所に確認を。

③(歯科より)『通院してもらった方が良い治療ができるのですが、歯科通院に小規模の職員さんは付き添いはできますか?』

⇒市町村によって対応が違います。彦根市は通院の送迎は小規模多機能型のサービスではできません。乗降介助のみ可能です。別々に現地に行って乗降時のみ介助を行います。

④(薬科より)『薬局で患者さんに小規模多機能型の紹介をした時、費用が高いと思われる患者さんが多いのですが。』

⇒包括利用料金(介護度ごとに一定料金)です。他に事業所ごとに加算や自費として宿泊費や食事代がかかります。

①『先生、独居の方の受診について、同席できない場合、後で電話などでお聞きすることは可能ですか?』

⇒(医師より)遠慮せず聞いてもらったらよいと思います。病院はMSWさん等を通じて聞いてもらえたらいいと思います。

②『先生、お泊りの時の往診はしてもらえますが、病院の先生が主治医の場合どうしたらよいでしょうか。訪問可能なかかりつけ医を紹介して頂けるのでしょうか。また訪問診療をしていないかかりつけ医の場合、どうしたらいいのでしょうか。』

⇒一度病院や診療所の主治医に相談してみてください。また、彦根市立病院でも在宅支援室に相談窓口を設けました。

③『病院から利用者の相談(紹介)がありますが、病院としてどのような方を小規模多機能型にと思われませんか? 基準などありますか?』

⇒(MSWさんより)個人的な意見ですが、認知症の症状があり、環境の変化で混乱が生じそうな方の場合、同じ人が関わってくれるという面で小規模多機能型を紹介したりしている。また、居宅のサービスでは限度額がオーバーしてしまいそうな人、泊りも何とかしてほしいと思う方も紹介したりします

④『看取りの利用者さんで訪問看護を家族に勧めましたが了解されませんでした。どのように勧めるとよいでしょうか?』

⇒(訪問看護師より)訪問看護師が入るかどうかが決まっていなくてもカンファレンスなどによんでいただければ、できることを家族に詳しく説明をします。

### 互いの現状を知り合うことからつながりが始まります

「介護保険と医療保険、限度額がオーバーする場合、サービスの組合せ、看取り…」等々、地域に密着した多機能の施設だからこそ複雑なしくみがあって、これらの様々なサービスの良さを、今後、どんどん地域に浸透させていく必要があるのだなと感じました。その人の望む暮らしに合ったサービスが適切に利用できるように、医療福祉関係者から様々な情報が発信できるようにしていければと思います。

そしてまた、この場(研究会)をきっかけに、『わからないことを聞きあえる、相談し合える』新たなつながりが生まれていくことを期待しています。



他にもたくさんの疑問・質問をいただきました。『追跡調査』でお伝えしていきます。

## ご参加ください! ことう地域チームケア研究会

お知らせメールの登録をお願いします

研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は①お名前②ご所属③ひとこと をいれて事務局までメール送信してください ☆事務局 (mail) [info@gen-ai-ken-kaigo.jp](mailto:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)

次回は・・・平成28年9月8日(木) 18:30~20:30

テーマ: 『高齢化と精神障害について』

会場: くすのきセンター1階研修室

担当団体: 彦根医師会・湖東健康福祉事務所

\*申し込みは不要です。当日会場へお越しください

\*問い合わせ先: ことう地域チームケア研究会事務局

彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455)

彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)



地域生活支援センターまな川畑さん

HP「在宅医療福祉の森」でも研究会のホームページをご覧いただけます。



# こんなこと思いました

第21回ことう地域チームケア研究会

参考になった、もう少し聞きたい、報告したい

小規模多機能のメリット、デメリットがわかり勉強になりました。住み慣れた地域で慣れたスタッフさんとのかわりの中安心して生活が継続していけると良いと思いました(看護師)

小規模多機能はサービスの集合体というイメージでした。一つ一つのサービスの枠にとらわれず、利用者様の生活スタイルに合わせていくという点を理解できました(理学療法士)

小規模多機能サービスでの細かな内容を知ることができました。メリットだけでなくデメリット(利用者が依存的になるリスク)が聞けて参考になりました(介護支援専門員)

学ぶことの多い時間を過ごすことができました(看護師)

大まかなことは分かったがどこまで利用者様をサポートできるのか?事業所自体サポートできるのか?利用者、スタッフ含め、事業が普及していけばとても良いことだと思う(介護職)。

小規模多機能型居宅介護についてのサービスについて詳しく知ることができた。

小規模多機能について大まかに知っていたことはありますが実際関わる方の思いや大変さを知ることができました(介護福祉士・相談員)

彦根市での両事業についての実状が把握できた(介護支援専門員)

実際の場面や利用状況について知りたい(看護師)

小規模多機能の状況が理解できた。メリット、デメリットがあるので、今後利用される時に説明したい(介護職)

定期巡回・随時対応型介護看護についてとても参考になった。また小規模についても細かなことがわかり勉強になった(医療ソーシャルワーカー)

小規模多機能についてもっと地域に周知していく活動が必要だと思います。ぜひ頑張ってください

小規模多機能の事知らないことが多くたくさんのお意見いただき勉強になりました。聞きたいことがたくさんありますがまた顔なじみという意味で事業へ出向いて話したいと思います(介護支援専門員)

利用者様が介護度が進んでいく一方ではなく何かしらの手として『学習療法』に取り組んでいます。何とかこの取り組みで進行の遅延ができればと思っています(介護事業所管理者)

介護度に応じて適切なサービスがスムーズに提供されることが大きなメリットだと知ることができました(保健師)

小規模多機能型の対応、利用者はどのような方なのか、どのような方に勧めればいいのかあまりわからない(サービスありきの考え方ではなく)(介護支援専門員)

色々金銭面などわからないことが見えました(看護師)

看取りで訪問看護が入りにくい事例があった。事業所により対応が違うなど思いました(看護師)

具体的な利用方法や勧め方を理解できました。利用料などは施設ごとに異なり、好みなどで選べたらいいと思いました(薬剤師)

サービス利用にあたって料金、できることがあまりに複雑で利用者は納得できているのか疑問に感じた。この点が明確、簡単に理解できる方法はないでしょうか(薬剤メーカー 営業職)

日々の業務の中で他の職種と連携ができたことやもう少しこんな連携が出来たらよいと感じたこと

病院との連携はできていますが開業医との連携が難しいです(介護支援専門員)

もっと気軽に相談や話し合いができればよいと思います(看護師)

在宅でのお風呂利用(介護職)

高齢者福祉サービスと障害福祉サービスの間で情報交換やチームケアが出来たらよいと思うことがあります(相談員)

医療と訪問介護、看護が説明されたサービスが本格的に動き始めれば違った形での活動が見えます(介護職)

ITもいいけど顔の見える関係が大事

他の制度(障害サービスなど)との連携(お互い内容を知らない)

今回も服薬のタイミングごとに5分訪問している等介護職の皆様が薬に振り回されている様子をうかがいました。もっとも薬の専門職として提案させていただけることがあると思いますので、薬剤師にご相談ください(薬剤師)

# 第21回のSNAP

2016. 7. 14



グループでの意見を全体でシェア



全員自己紹介



様々な職種や業種から  
意見をいただきます。



「この研究会は、和やかな雰囲気ですっかりに意見交換  
ができるのが良いですね」とそんな感想が寄せられています。

